



AOI国際病院 Time's

VOL. 36 秋号

目次

- P1-2 おしえて！
ドクターインタビュー
～腎臓内科 伊原先生～
- P3-4 患者支援センター開設
- P5 看護師長さんに
聞きました
- P6 外来患者様会計
待ち時間調査結果
- P7 編集後記

病院の理念

地域の皆様に信頼していただける、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 救急医療から、一般急性期、回復期、慢性期、緩和ケア期までのシームレスな総合医療を提供します。
2. 川崎市臨海地域病院として、各医療機関、保健福祉機関と密接に連携します。
3. 生活習慣病健診を充実させ、予防医学に貢献します。
4. 運営の持続的安定を確保し、病院としての責任を果たします。
5. 職員が誇りを持てる働き甲斐のある病院を目指します。

第12回

教えて！インタビュー



腎臓内科

いはら ふみたか

伊原 史崇 医師

もっと皆様に当院のことを知っていただきたくAOI国際病院で働く医師をご紹介します。

第12回目は、AOI国際病院 腎臓内科 伊原 史崇 先生にお話を伺いました。

経歴

2009年 東京大学理学部生物学科 卒業
 2014年 東京医科歯科大学医学部 卒業
 2014年 済生会川口総合病院
 2016年 JAとりで総合医療センター
 2018年 土浦協同病院
 2019年 JAとりで総合医療センター
 2024年 平和病院
 2025年 AOI国際病院 腎臓内科

資格/
専門医

日本内科学会 総合内科専門医
 日本腎臓学会 腎臓専門医・指導医
 日本透析医学会 透析専門医
 多発性嚢胞腎協会 多発性嚢胞腎認定医
 難病指定医
 身障者福祉法指定医

Q1. 医師を志したきっかけを教えてください

学生時代、目の前で倒れた方に何もできずに立ち尽くすしかなかった経験がありました。その無力感から「いざというときに人の命を救える存在になりたい」と強く思い、医師を志しました。

Q2. 当院で診ている具体的な疾患を教えてください

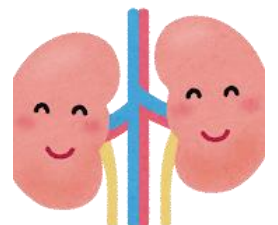
腎臓内科は、血尿や蛋白尿、むくみ、高血圧、腎機能の低下など、腎臓に関する幅広い病気を診る診療科です。腎臓は体のバランスを整える大切な臓器で、生活習慣病との関係も深く、早期からの対応がとても重要です。

Q3. 当院の腎臓内科にはどのような特徴がありますか？

慢性腎臓病（CKD）、糖尿病性腎症、IgA腎症、多発性嚢胞腎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、電解質異常などを診ています。腎生検による診断や、透析の導入・手術、維持管理など、幅広い腎疾患に対応しています。

Q4. 診療にあたり心掛けていることはありますか？

診療では「わかりやすく、伝わる言葉」での説明を大切にしています。医療用語を避け、一般的な言葉を使うことで、患者さんが安心して治療に向き合えるよう心がけています。



伊原 史崇 先生に聞きました

Q5. 日々の業務内容をおしえてください

外来では慢性腎臓病や高血圧の診療を、入院では腎生検や透析導入、シャントの手術等も行っていきます。

Q6. 先生のリラックス法やストレス解消法があればおしえてください

週4~5回、筋トレをしています。平日は朝4時前からジムにすることが多いです。週末は子どもと動物園か公園に出かけることが楽しみです。



Q7. 先生が健康を維持するために続けていることはありますか？

患者さんに減塩の重要性を伝える立場として、自らも率先して取り組んでいます。家庭では減塩しょうゆや減塩調味料を使い、汁物のスープはなるべく残すよう心がけています。

Q8. 好きな言葉・座右の銘はありますか？

「油断大敵」ほんの少しの油断が大きなトラブルにつながることもあるからこそ、丁寧に、誠実に、目の前のことに向き合っていきたいと考えています。

Q9. 地域のみなさま・患者さまに一言おねがいします！

地域の皆さまと出会い、健康づくりのお手伝いができることを大変光栄に思っています。腎臓に関することはもちろん、健康に関する不安や悩みもどうぞお気軽にご相談ください。



外来担当表

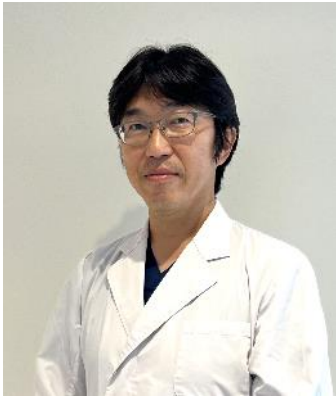
腎臓内科

※HPに最新の外来担当表をのせています

	月	火	水	木	金	土
午前	伊原	吉川	伊原			
午後						

患者支援センター開設

AOI国際病院では、2021年3月より患者サポートセンターを開設し、入退院支援を行ってまいりましたが、2024年10月より更なる充実を図るべく「入退院支援室」「医療福祉相談室」「地域医療連携室」「患者相談窓口」を統合した患者支援センターを開設いたしました。



患者支援センター長
柴 浩明

患者支援センターでは、医師、看護師、医療福祉相談員（MSW）、薬剤師、管理栄養士、地域医療連携職員、事務職員など多職種にわたる職員が連携し、患者様やご家族様の対応をいたします。入院準備から退院後の生活まで少しでも良いものになるようサポートしていきます。

入院するというだけでも不安を感じられる方は多くいらっしゃいます。入院前より支援を開始することで、患者様、そしてそれを支えるご家族様も含めてサポート致します。さらに、退院後の療養生活についても地域の医療機関や福祉施設と連携を図り、患者様、ご家族様が安心して生活できる体制を整えて参ります。

患者支援センター副センター長として、患者様の立場に立った支援を大切にし、安心して医療を受けられる環境づくりに努めています。地域の皆様に貢献できるよう、多職種と連携し、きめ細やかな対応を心がけています。



患者支援センター
副センター長
白石 亜希子



患者支援センター スタッフ一同



患者支援センター開設

医療福祉相談室

入院中から退院や退院後の療養生活の心配事や各種制度の利用について患者様、ご家族様に寄り添ったサポートを心がけております。また、退院後のかかりつけとなる医療機関との連携や、介護支援などの調整を患者様やご家族様と相談しながら行って参ります。以下のようなご相談に対応しております。

- 1.入院療養中に関するご相談
- 2.退院後の生活や介護に関するご相談
- 3.各種医療制度や福祉制度の手続きに関するご相談
- 4.社会復帰についてのご相談
- 5.転院先、施設や療養型病院、回復期リハビリテーション病院などの退院後の療養に関するご相談
- 6.医療機関からの回復期リハビリテーション病棟、療養病棟、障害者病棟、緩和ケア病棟への転院相談

入退院支援室・患者相談窓口

入退院支援室では、安心して入院から退院までを迎えられるように看護師が3名配属されています。

入院支援では、入院が決まった患者様の不安が少しでも軽減し、安心、安全な入院生活を送れるように、入院手続き時に、入院生活や持ち物、検査や治療の説明などの入院前面談を行っています。

退院支援では、安心して退院後も療養生活が送れるように相談員をはじめとした他職種と連携しながら、患者様・ご家族様の思いを尊重しながら介入しています。

また、患者相談窓口では、患者様からの様々なご相談に応じておりますので、お気軽にご相談ください。

地域医療連携室

病院と地域の医療機関（診療所、クリニック、病院など）や介護施設等との連携を円滑に進めるための窓口となります。主に前方連携業務を担い、地域の医療機関等からの紹介患者様をスムーズにお受け入れするための取り組みや、広報活動を行っています。

【主な役割】

- 地域医療機関から紹介患者様の受診調整窓口
- オープン検査（CT、MRIなど）の予約
- 急性期病棟への（レスパイト入院も含む）入院等相談窓口
- 地域医療機関への外来受診調整、入院及び転院調整
- 診療情報提供依頼など地域医療機関との連携窓口
- 紹介状及び返書の管理 来院・受診報告など
- 広報活動（外来担当表発送や広報誌の発行等）



第8回

看護師長さんに聞きました

【今回は手術室の木村師長にお話を聞きました♪】



手術室
木村看護師長



Q1. 師長が看護師を目指したきっかけは何ですか？

小さい頃から「将来は看護婦さんになる」と言っていたようですが、はっきりとしたきっかけは思い出せません。ただ、祖母の通院に付き添い、病院や看護師さんの姿に触れる中で、人を支える仕事への憧れが少しずつ芽生えていったのだと思います。



Q2. 手術室で働く中でよかったと思えることは？ やりがいを感じるのはどんなときですか？

一スタッフとして働いていた時、術後訪問時で患者様より「そばにいてくれて安心しました」と声をかけられたことがありました。
手術室という限られた関わりの中でも、不安な気持ちに寄り添えたことにやりがいを感じ、手術室看護師としての役割の大切さを実感しました。

Q3. 師長として大切にしていること、心掛けていることはありますか？

手術室は緊張感の高い現場です。チーム全体の連携と信頼関係が欠かせません。
スタッフが安心して意見を出し合えるような風通しのよい職場づくりを意識し、スタッフの声に耳を傾けるよう心がけています。



Q4. 師長のリフレッシュ方法があれば教えてください。



着物の羽織紐や帯留めなどを自分で作り、出来上がった小物を身につけて、自分で着物を着てお出かけすることです。
着物を着ると不思議と気持ちが切り替わり、そんな装いで出かける時間は私のリフレッシュです。



外来患者様会計待ち時間調査結果

当院では、サービス向上及び質改善の一環として、2025年1月24日に外来受診された患者様に会計待ち時間調査を実施させていただきました。ご協力いただきました患者様、ご家族様に御礼申し上げますとともに、ここに調査結果の概要についてご報告させていただきます。

調査目的

会計待ち時間を短縮することにより、患者様満足度の向上につながると考えています。また、待ち時間の実態を把握することで、課題が明らかになり、改善策を見出し対応し、患者様の満足度を高めることを目的としています。

調査方法

患者様が会計受付のトレーにファイルを出された時間から患者様が会計精算機でお会計をされるまでの時間を集計します。

調査方法

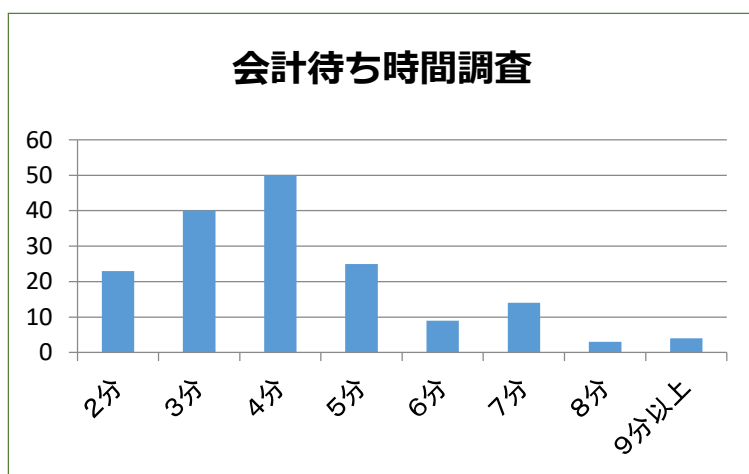
2025年1月24日（金）の午前中に外来受診された患者様 合計168名

調査結果

時間	2分	3分	4分	5分	6分	7分	8分	9分以上
人数(人)	23	40	50	25	9	14	3	4



今回の調査結果では、平均待ち時間が1人あたり4分という結果となりました。患者様により快適に受診していただけるように、今後も待ち時間調査を実施し、その結果をもとに、待ち時間短縮のための対策を検討・実施し、より良い外来運営に取り組んでまいります。また、日常でもお気づきの点がございましたら、病院内に設置しておりますご意見箱にお寄せいただきたいと思います。



よろしくお願いします

地域の皆様が安心して医療を受けていただけるよう、職員一同邁進してまいります。



編集後記

朝晩の空気がひんやりしてきて、ようやく秋らしさを感じる季節になりましたね。しかしこの時期、「なんとなく体がだるい」「寝ても疲れが取れない」「やる気が出ない」といった声をよく耳にします。観測史上最も暑い夏をなんとか乗り越えたと思った矢先のこうした不調、実は「夏バテ」ならぬ「秋バテ」と呼ばれる状態かもしれません。

夏バテは夏の暑さによる疲労が主な原因であるのに対し、秋バテは夏の暑さや冷房で蓄積した疲れに加えて、秋の寒暖差や気圧の変動が合わさることで自律神経が乱れることが主な原因です。症状は似ていますが、夏バテは暑さから、秋バテは体内の冷えや気温差による不調という違いがあります。



秋バテの代表的な症状として、だるい、すぐに疲れる、頭痛や肩こり、眠れない、眠りが浅いといった症状が挙げられます。身体面の不調の他にも、やる気が出ない、気分が憂鬱になるなどメンタルの不調が起こることもあります。精神面の症状には気温の変化の他、日照時間の減少も影響していると考えられています。秋バテの対策・解消法は、規則正しい生活、朝の太陽光を浴びる、適度な運動や入浴、バランスの良い食事が効果的と言われています。



食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋など、秋を楽しむために健康管理をして健やかな生活を過ごしましょう。私も最近「体が重い」と感じるがありますが、『食欲の秋』による体重増加ではなく秋バテだろうと、そっと体重計から目を背けています・・・。

これから冬に向かって日増しに肌寒くなってきます。秋バテに負けず、体調を崩されませんよう、ご自愛ください。

地域医療連携室 飛山

患者さまのご紹介、ご予約のお問い合わせは
地域医療連携室 TEL 044-277-5519(直通)
 FAX 044-277-5747